

特別支援教育コーディネーター通信「シナノビ」

札幌市立信濃中学校
特別支援教育コーディネーター：田近 健太

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条2丁目3-1
☎011-891-2503

いまどきの 「支援」特集

不定期でお届けするこの通信「シナノビ」では、お子さまの学校生活や個別のお手伝いに役立つ情報をお届けしていきます。今回のテーマは、**いまどきの「支援」について**です。近年、発達障がいをはじめとする一人ひとりの「特性」や「特徴」への理解が広がり、それに対するサポートも急速に進化しています。保護者のみなさまが小・中学生だったころと比べると、「支援」に対する考え方や学校でできることは大きく変化しました。現代の支援は、マイナスを補うだけでなく「**子どもたちの可能性を広げる**」ための前向きなものへと変わってきています。

この通信を通じて最新のサポート例を知っていただき、いざというときの選択肢（引き出し）としてお役立ただければ幸いです。

学校生活で気になることや不安なことがあれば、どんな小さなことでもお気軽にご連絡ください。

ご相談窓口：担任・学年の教員・特別支援教育コーディネーター
学校でできる工夫と一緒に考えたり、必要に応じて専門機関などへおつなぎしたりと、次の一步を踏み出すお手伝いをさせていただきます。

通常の学級における 「支援」いろいろ

「支援」と聞くと、「特別な限られた人だけが受けるもの」と思っていませんか？
実は、支援はとても身近な存在です。例えば「見えづらいから席を前の方にする」「トイレに行きやすいよう入り口近くの席にする」「光をまぶしく感じるから、窓から離れた席にする」というのも、大切な支援（配慮）のひとつです。近年では、発達障がいをはじめとする“目には見えにくい困りごと”に対しても、通常の学級のなかで一人ひとりに合わせた丁寧な工夫が行われるようになってきています。

《**学校生活での工夫・お手伝いの例**》

◆**周りの音が気になって集中しづらい**
→ イヤーマフや耳栓の使用を認める

「合理的配慮」って？

「合理的配慮」とは、障がいや発達の特徴によって、学習や学校生活で生じる“困りごと（バリア）”を減らすために、行う、個別の環境調整や工夫のことです。「障がい」と聞くと少し重い言葉に感じられるかもしれませんが、ここで言う「障がい」とは、お子さまが生活や学習で感じている「しんどさ」の背景にある特性やきっかけのことを指しています。
合理的配慮は、本人・保護者のみなさまと学校がしっかり話し合い、「どのような工夫があれば安心して学べるか」を一緒に考えた上で、学校で無理なく実施できる範囲で決定・提供していきます。

◆**手で書くことが極端に苦手で、ノートを取るのに夢中になってしま**
う → 板書をタブレットで写真撮影する / 書く量を調整する
◆**手書きの課題に取り組むのが難しい** → ICT機器（Chromebook等）を活用して提出する
◆**気持ちが波立ち、学習に集中できなくなる** → 別室（静かな場所）でクールダウンの時間をとる

これらの工夫やお手伝いは、お子さまや保護者の方からのご相談・ご希望をきっかけに、学校と話し合いながら進めていきます。必要に応じて心理検査の結果、医師の診断などを参考にさせていただくこともありますが、まずは「お子さまが学校でどんなことに困っているか」を一緒に共有することから始まります。

＜試験での合理的配慮の例＞

高校入試やテストなどでも、以下のような配慮が行われることがあります。

- 別室での受験（周りの音や視線を減らす）
 - 試験時間の延長・調整
 - 問題文へのルビ（ふりがな）振り
 - パソコン・タブレットの活用（手書きではなくワープロ機能で解答する）
 - 試験用紙の工夫（拡大印刷、見やすい色の用紙への変更など）
 - 座席や教室環境の調整
 - 面接方法の変更（集団面接から個別面接へ）
- （参考：文部科学省「高等学校入学者選抜における受検上の配慮に関する参考資料」R4.12）

合理的配慮って、 入試でも受けられ るの？

結論から言うと…受けられます！

「普段の学校生活ならともかく、高校入試という大事な場面で『特別な配慮』なんてしてもらえるの？」と思われるかもしれませんが、実際の高校入試でも、個別の状況に応じた合理的配慮を受けることができます。**また、特別な配慮が、高校入学の合否に影響を与えることはありません。**

入試で合理的配慮を受けるための2つのポイント

① 中学校での「配慮の実績」があること

入試当日だけ急に普段やっていない特別な配慮を行うことは、かえって本人の混乱につながるため原則できません。「中学校の日常やテストでどのような支援を受けてきたか」「その方法が本人にとって有効か」という実績が重要になります。

② 客観的な根拠（診断書や心理検査の結果など）があること

どのような困りごとがあり、なぜその配慮が必要なのかを示す資料として、医師の診断や心理検査の結果などが参考にされます。

だからこそ、「早めの相談」が大切です

自分に合った配慮の方法は、普段の授業やテストで実際に試しながら、本人の様子に合わせて調整していくものです。

「高校入試で配慮を受けたい」「テストで困っている様子がある」という場合は、中3になってからあわてるのではなく、ぜひ早い段階から学校へご相談ください。今から少しずつ、お子さまにピッタリの支援と一緒に探していきましょう。

学びの場いろいろ

より効果的なサポートを受けるために、通常の学級以外にもいろいろな学びの場を活用することもできます。

1. 通級指導教室

通常の学級に所属しながら、日常の困りごとを個別にサポートする場です。「基本は通常の学級で過ごせるけれど、『**ちよい足し**』の支援があると助かる！」というお子さまが利用しています。

○厚別区の拠点

この信濃中学校に「**まなびの教室**」が設置されています。

○多様なサポート

言葉や聞こえ、見え方に困りごとがあるお子さま向けの通級指導教室もあります。

ことばの教室・きこえの教室：中央中
ひとみの教室：日章中

○安心ポイント

札幌市での教育相談などの手続きが必要となりますが、通級での学びは正式な授業として扱われます。成績や内申点に不利益が生じることはありません。

2. 特別支援学級

授業の多くを専用の教室で学んだり、少人数の落ち着いた環境で学ぶことが適している場合に選択できる学級です。特別支援学級には、大きく分けて2つのタイプがあります。

知的障がい特別支援学級

一人ひとりのペースに合わせた学習を行います。卒業後は特別支援学校等へ進学する生徒が多い傾向にあります。

自閉症・情緒障がい特別支援学級

近年、札幌市をはじめ全国的にも利用する生徒が増えている学級です。得意・不得意の差や環境への馴染みにくさに配慮しながら学びます。卒業後は普通高校（通信制高校など）へ進学する生徒が多くなっています。

おわりに

「うちの子にはどんな学びの場が合っているんだろう？」と気になることや迷うことがありましたら、いつでも担任や特別支援教育コーディネーターまでお気軽にご相談ください。お子さまが一番自分らしく、安心して力を発揮できる環境を、一緒に考えていきましょう。

便利！支援ツール紹介

マルチメディアデジ教科書

1人1台端末（Chromebook等）で利用できる「**音声読み上げ機能がついたデジタル教科書**」です。

★ 主な便利機能

- ・**音声読み上げ&ハイライト**: 音声に合わせて、いま読んでいる文章の部分に色がつくので、どこを読んでいるかが一目で分かります。
- ・**ルビ（ふりがな）振り**: 難しい漢字にもふりがなをつけられます。
- ・**表示の調整**: 文字の大きさや色、背景色を読みやすいように変更できます。

★ こんなお子さまにおすすめ！

- ・漢字の読みや文章を読むのが苦手
 - ・視線を移動させながら読書をするのが苦手
 - ・日本語を習い始めたばかり
- 条件を満たせば**無料**で利用申請ができます。学校で実際の画面（実物）をお見せすることもできます（ネット上でも調べられます！）ので、「ちょっと見てみたいかも」という方は、特別支援教育コーディネーターまでお気軽にお声がけください！